



施設利用者に取材する生徒―浜松市西区の特別養護老人ホーム浜名湖園で

職場の魅力インタビュー

浜松市西区のオイスカ浜松国際高校の生徒が、同区の特別養護老人ホーム浜名湖園を訪れ、職員らに仕事のやりがいなどを取材した。地元の企業や団体の魅力を知るため、LPカス販売「エネジン」（同市中区）が同校と2020年から続ける取り組みの一環。

エネジンは、大都市圏への人口流出防止やUターン推進のため、地域の仕事を知ってもらい、情報発信する活動を提供している。生徒は1年間に3団体を訪問。取材した内容は、同社が運営する市の情報発信ブログ「エネフィー」家のほのぼの日記」や、同校が紙にまとめて協力店舗や企業などに掲示する。

17日は、市内6カ所で行

オイスカ高生 介護施設訪問

校の生徒約35人が取材活動に臨んだ。浜名湖園では、担当者から特養の説明を受けた後、職員と利用者インタビュー。職員には仕事のやりがいや介護の仕事を選んだきっかけを、利用者には最近あった楽しいことなどを聞いた。2年の鈴木柚波さん(17)は「母が介護士で介護関係の仕事も将来の選択肢にあるといい、アットホームな雰囲気を感じた。なかなかこんな体験はできないので、社会経験になったし仕事を選びやすくなると思う」と振り返った。

同社営業企画課の夏目貴文課長(40)は「ネットで何でも疑似体験できる時代だが、自分の目で見て体験できる機会は少ない。地域に貢献するためにも地元の企業、団体と交流を図りたい」と語った。(長谷川竜也)